

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

尿路結石症診療ガイドライン第3版

日本泌尿器科学会、日本尿路結石症学会、日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会尿路結石症診療ガイドライン(第3版)改訂統括委員会(委員長 山口聡 医療法人仁友会北彩都病院副院長・尿路結石センター長)、改訂委員会(委員長 宮澤克人 金沢医科大学学長・金沢医科大学泌尿器科学主任教授)

医学図書出版株式会社 2023 年 8 月 30 日発行

エビデンスの確実性

- A(強)
- B(中)
- C(弱)
- D(非常に弱)

推奨の強さ

- ①「実施する」ことを推奨する
- ②「実施する」ことを条件付きで推奨する
- ③「実施しない」ことを条件付きで推奨する
- ④「実施しない」ことを推奨する

Minds 掲載 有

■1 漢方製剤

疾患:

尿路結石

CPG 中の Strength of Evidence

B(中等度)

CPG 中の Strength of Recommendation:

「実施する」ことを条件付きで推奨する

有効性に関する記載ないしその要約:

『CQ3 尿管結石を有する患者に対して、結石の排出促進を目的として、薬物(α_1 受容体遮断薬, 抗コリン薬, カルシウム拮抗薬, ウラジログシエキス, 漢方製剤)の投与は、非投与例と比較して、推奨されるか?』に以下の記載がある。

『漢方製剤などはエビデンスレベルの高い RCT が施行されておらず、今回の検討からは除外された。』

備考:

CQ に推奨はついていないが、『漢方製剤などはエビデンスレベルの高い RCT が施行されておらず、今回の検討からは除外された。』との記載および引用文献がないことから、タイプ C に分類した。

■2 漢方製剤(猪苓湯)

疾患:

medical expulsive therapy (MET)

有効性に関する記載ないしその要約:

『第 3 章尿路結石の診断と保存的治療』の『3 疼痛緩和と medical expulsive therapy』の項に以下の記載がある。

『 α_1 受容体遮断薬以外の薬剤(抗コリン薬, カルシウム拮抗薬, ウラジログシエキス, 漢方製剤など)については、エビデンスレベルの高い RCT が施行されておらず、今回の評価には含まれないことに注意が必要である。』

備考:

『表 2 MET に使用される薬剤』の中に、漢方製剤として猪苓湯の記載がある。